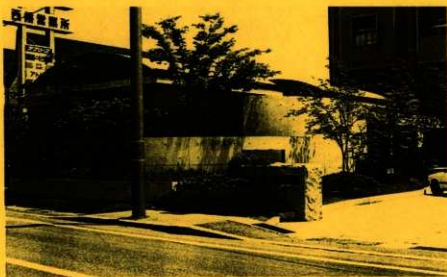


太子町文化財資料 第13集

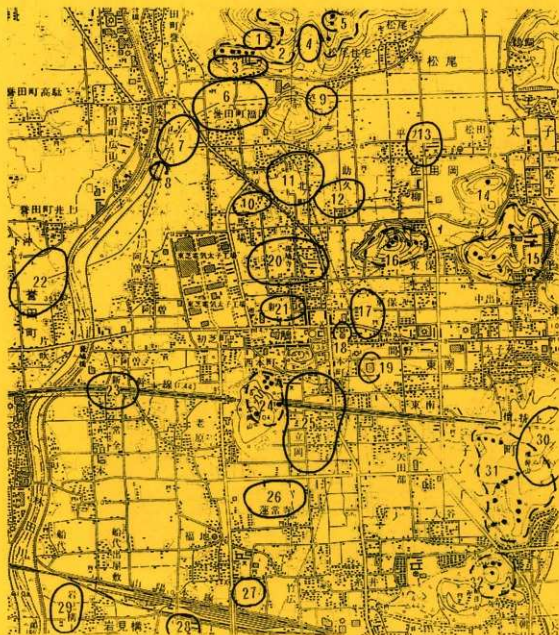
# 鰯遺跡の調査2 - 第6次調査 -

太子町立中央公民館「ふれあいホール」建設工事  
に伴う埋蔵文化財調査報告



1990年7月

太子町教育委員会



第1図 周辺の主な遺跡(1/25000)

- |           |           |             |            |
|-----------|-----------|-------------|------------|
| 1 舎里田遺跡   | 2 笹山墳墓群   | 3 上福田遺跡     | 4 円勝寺廃寺    |
| 5 笹山経塚群   | 6 福田天神遺跡  | 7 福田片岡遺跡    | 8 春日社址     |
| 9 坊主山遺跡   | 10 馬場遺跡   | 11 城山遺跡     | 12 枝重・助久遺跡 |
| 13 平方遺跡   | 14 松田山古墳  | 15 丹生山古墳群   | 16 東保山古墳群  |
| 17 船遺跡    | 18 船・石田遺跡 | 19 東南遺跡     | 20 斑鳩寺遺跡   |
| 21 斑鳩寺南遺跡 | 22 片吹遺跡   | 23 常全遺跡     | 24 立岡山古墳群  |
| 25 立岡遺跡   | 26 蓮常寺北遺跡 | 27 福地・宮ノ前遺跡 | 28 福地・相坂遺跡 |
| 29 上構遺跡   | 30 檀特山遺跡  | 31 檀特山古墳群   | 32 朝日山古墳群  |

## 例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町鵜字堂ノ内に所在する<sup>いかるが</sup>船遺跡第6次調査の概要報告書である。
2. 調査は、太子町立中央公民館「ふれあいホール」建設工事に伴い、昭和63年9月に立合調査を実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・田村三千夫が担当した。
4. 本調査・整理作業にあたっては、以下の協力を得た。  
小野八郎・小野斉・藤井昭子・藤井実・森崎宏子・柳生俊一  
・岩村千穂・伊藤慶子
5. 遺物の実測は、田村・伊藤が行い、トレースは田村が行った。
6. 本書の執筆・編集は、田村が担当した。

## も く じ

1 調査に至る経過	3
2 調査の概要	3
3 まとめ	4
出土遺物観察表	5

## 図 版・写 真 も く じ

第1図 周辺の主な遺跡	1	写真1 坪1南壁	13
第2図 遺跡の位置	3	写真2 坪2南壁	13
第3図 船遺跡調査位置図	4	写真3 土層(塙(4)層)	13
第4図 調査地区平面図	7	写真4 調査地区	14
第5図 土層図(1/40)	8	写真5 調査地区	14
第6図 出土遺物(1)	9	写真6 土贖1	14
第7図 出土遺物(2)	10		
第8図 出土遺物(3)	11		
第9図 出土遺物(4)	12		

# 鵜 遺 跡 の 調 査 - 第 6 次 -

- |         |                          |
|---------|--------------------------|
| ①遺跡の所在地 | 兵庫県揖保郡太子町鵜<br>字堂ノ内1410番地 |
| ②調査主体者  | 揖保郡太子町教育委員会              |
| ③調査担当者  | 社会教育課 三村修次<br>田村三千夫      |
| ④調査期間   | 昭和63年 9月20日～ 9月28日       |
| ⑤調査面積   | 320 m <sup>2</sup>       |



第2図 遺跡の位置  
(1:25000「新」・「鵜」)

## 1. 調査に至る経過

鵜遺跡は太子町の市街地の東、鵜字久治田・東保字高田付近に位置し、林田川東岸の完新世段丘上の標高13～15mに立地する。1968年以来5次の発掘調査が行われ、弥生中期から古墳時代の複合遺跡であることが確認されているが、今回、中央公民館に「ふれあいホール」を増築することになり、埋蔵文化財確認のため、立会調査を実施した。調査地は鵜字堂ノ内1410番地で、現在、公民館の駐車場になっている。

## 2. 調査の概要

調査地は厚い盛土に覆われているため、まず、ユンボを用いて予定地内の2ヶ所で坪掘りを行った。いずれもアスファルト舗装の下は、1.5m近く赤橙褐色の山土で盛土され、その下にうすく耕作土があり、耕作土直下の標高12.7m前後で黄茶褐色粘質土の遺構面が確認された。この面で、近世以降の瓦師による土探り跡と考えられる土壌3、性格不明の土壌1が確認されたが、遺物は採集されなかった。他の部分も土探りのために攪乱を受けていると考えられ、また、性格不明の土壌は工事区域外に広がるものであるため、あとは「ふれあいホール」の基礎工事の掘り方を利用して立会調査を行うことにした。

基礎工事では遺構面からさらに40cm程度掘削したが、その時の立会調査の結果、近世以降の瓦師による土探り跡と考えられる、少なくとも8個の土壌が確認され、うち、2個からは廃棄された瓦・陶磁器片が出土した。その中には、18世紀のものと考えられる肥前磁器が含まれる。また、北側 1/4ではベースが約20cm高くなり、さらに遺構面と同質の黄茶褐色粘質土で50cm程度地上げされる。この部分で、

古墳時代前期の浅い土壌（土壌Ⅰ）等が確認され、土師器が出土している。

### 3. まとめ

調査の結果、調査地区の北部は地上げされて水田面が一段高く、この部分で古墳時代の土壌が確認された。それより南では地下げが行われ、さらに、近世以降の瓦師による土採りが激しく、それ以前の遺構は確認されなかった。

鵜遺跡の調査については、以下を参照。

全体について 松本正信「鵜遺跡」（『太子町史』第3巻）1989.12.25.

第1次調査 上田哲也「損保郡太子町鵜遺跡」（東洋大学附属姫路高等学校考古学教室『播磨の土師器の研究』）1973.

第2次調査 三村修次「鵜遺跡」（兵庫県教育委員会『兵庫県埋蔵文化財調査年報 昭和57年度』）1985. 3.30.

三村修次・田村三千夫「鵜遺跡」（太子町教育委員会『播磨国鵜荘現況調査報告Ⅱ』）1989. 3.31.

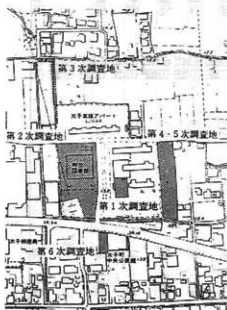
第3次調査 三村修次・田村三千夫「鵜遺跡」（太子町教育委員会『播磨国鵜荘現況調査報告Ⅱ』）

1989. 3.31.

田村三千夫『鵜遺跡の調査1-第3次調査-』太子町教育委員会 1990. 6.30.

第4・5次調査 田村三千夫「鵜遺跡（第4・5次調査）」（太子町教育委員会『播磨国鵜荘現況調査報告Ⅲ』）

1990. 3.31.

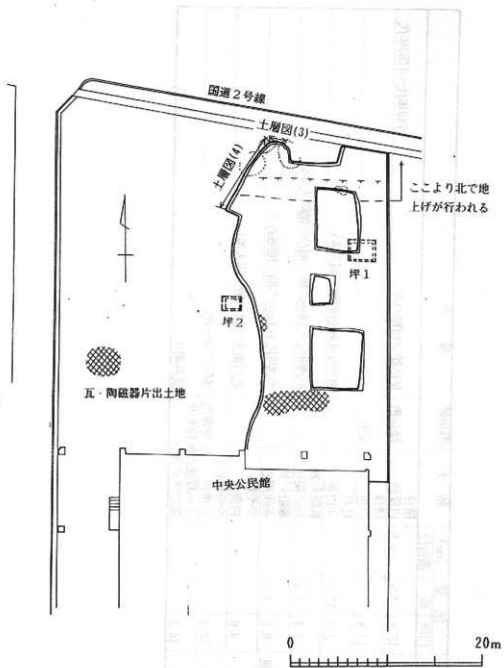


第3図 鵜遺跡調査位置図（1/5000）

## 出土遺物観察表

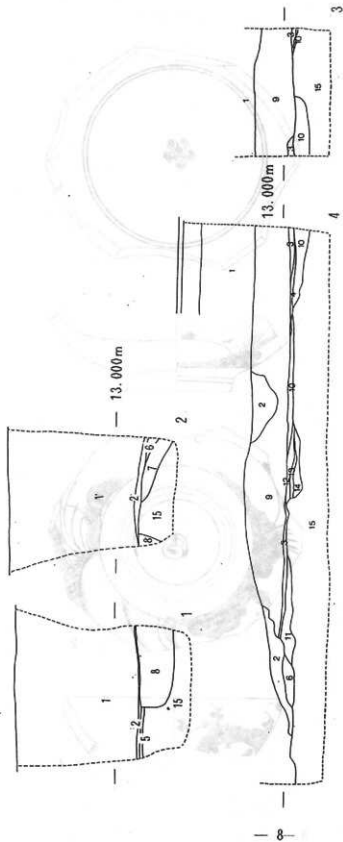
No.	器種	法量 (cm)		胎土	異須等	備考
		口径	高台径			
1	磁器 伊万里 染付 皿		5.5	精良 白色	藍色	
2	磁器 伊万里 染付 碗		5.9	精良 白色	藍色	見込五弁花のみコンニャク印版・渦福字銘 1700年代～1780年代
3	磁器 伊万里 染付 碗		4.1	精良 灰色	黒色	裏銘アリ 1700年代～1780年代
4	磁器 伊万里 染付 碗	11.6		精良 白灰色 行々以散い	黒藍色	1700年代～1780年代
5	磁器 伊万里 染付青磁 碗		4.4	精良 白色	藍色	青磁釉は淡墨緑色 見込五弁花のみコンニャク印版・渦福字銘 1700年代～1780年代
6	磁器 伊万里 染付青磁 碗		4.4	精良 白色	藍色	青磁釉は淡墨緑色 見込五弁花のみコンニャク印版 1700年代～1780年代
7	磁器 伊万里 染付 碗		4.3	精良 白色	淡藍色	「大明年製」前丸銘か 1700年代～1780年代
8	磁器 伊万里 染付 碗		4.0	精良 白色	藍色	高台端に砂粒が付着
9	磁器 伊万里 染付 碗		4.2	精良 白色	藍色	
10	磁器 伊万里 染付 碗		5.5	精良 白色	淡藍色	見込銘あり 釉は乳白色
11	磁器 伊万里 染付 鉢		8.2	精良 白色	藍色	
12	磁器 伊万里 染付 碗		4.5	精良 白色	黒藍色	見込銘あり 高台端に砂粒が付着
13	磁器 白磁 小皿	5.2	1.4	精良 白色	白色	蛇ノ目凹形高台
14	磁器 染付 皿	15.8	4.2	精良 白色	紺色	

No.	器種	法量 (cm)		胎土	異須等	備考
		口径	高台径			
15	磁器 伊万里 染付 皿	13.2	2.8	精良 白灰色	緑茶色	1740年代~1780年代 見込蛇ノ目軸ハギ
16	磁器 伊万里 染付 碗	11.5		精良 白色	藍色	
17	施釉陶器 皿	2.7	11.0	精良 灰白色		透明な灰緑色の釉・陥入多い
18	施釉陶器 野田焼 灯明皿	7.4	1.8	細粒多量 茶灰褐色		不透明な灰緑色の釉・細かい陥入多い
19	施釉陶器 野田焼 灯明皿	9.0	2.2	細粒多量 茶灰褐色		不透明な灰緑色の釉・軸陥あり
20	施釉陶器 碗	9.0		やや粗い 白黄色		乳白黄色で厚い釉・陥入多い
21	施釉陶器 碗	10.3		やや粗い 白黄色	黒青色 1mm程度の砂粒を非	透明で薄い釉
22	土師器 鉢	14.2		常に多く含む		淡茶褐色



第4図 調査地区平面図





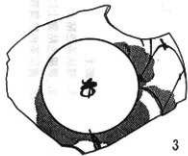
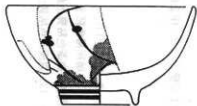
1. 坪1南壁 2. 坪2南壁 3. 基礎場方北西筋(1) 4. 基礎場方北西筋(2)

第5図 土層図 (1/40)

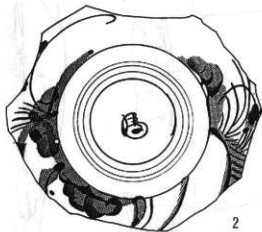
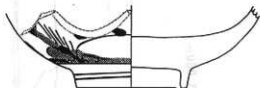
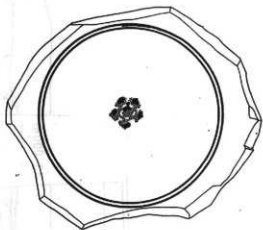
- |            |             |                                |                                 |             |
|------------|-------------|--------------------------------|---------------------------------|-------------|
| 1. 盛土      | 2. 旧耕土(1)   | 3. 旧耕土(2)                      | 4. 旧床土(2)                       | 5. 暗緑灰色粘土   |
| 6. 暗灰茶色粘土  | 7. 暗灰褐色粘土   | 8. 茶褐色粘質土に茶色・魚茶色粘質土がブロック状に含まれる | 9. 黄褐色粘質土に暗灰色・白茶色粘質土がブロック状に含まれる | 10. 黒灰褐色粘質土 |
| 11. 黄褐色粘質土 | 12. 黄灰茶色粘質土 | 13. 黒灰茶色粘質土                    | 14. 灰黄褐色粘質土                     | 15. 黄褐色粘質土  |



1



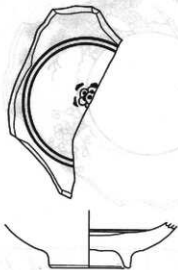
3



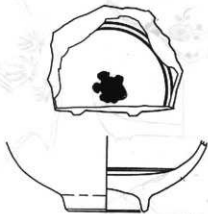
2



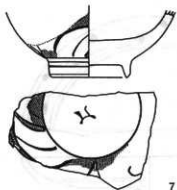
4



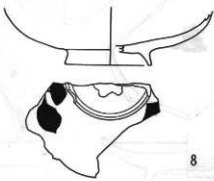
5



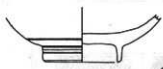
6



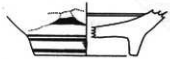
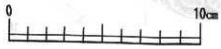
7



8



9

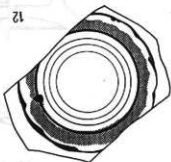


10

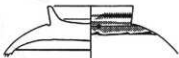
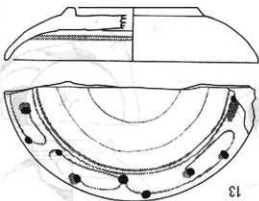
16



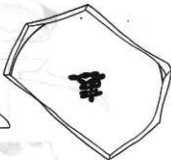
12



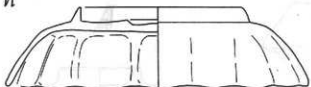
15



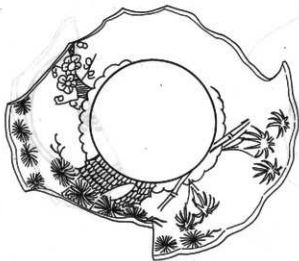
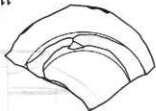
13



14

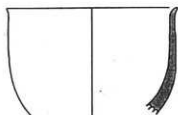


11





17



20



18



21



19



22





写真1  
坪1南壁



写真2  
坪2南壁

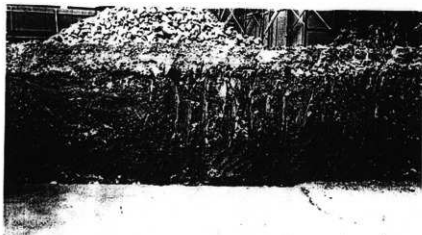


写真3  
土層(土層(4)股)



写真1  
調査地区



写真5  
調査地区

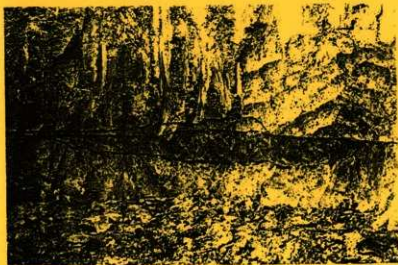


写真6  
土庫

